

システム監査技術者 講評

【総評】

システム監査基準やシステム管理基準，財務報告に係る内部統制基準類が本年改訂され，システム監査技術者試験においては次回から新基準に基づく試験が実施されます。よって今回は旧基準下で行われる最後の試験でした。そのため，今回の午前Ⅱ試験ではこれらの基準がどれくらい，どのように扱われるかに注目していましたが，旧システム監査基準の過去問題から3問の再出題がありました。午後Ⅰ試験では，ECサイト取引におけるクレジットカード情報の保護やローコード／ノーコード開発など，最近のIT技術を取り入れたシステムに対する監査業務が題材となっていました。午後Ⅱ試験で今回取り上げられたのは，データ利活用基盤の構築の監査と，サイバーセキュリティ管理態勢の監査，の2問です。どちらも，ある特定のシステムを対象とした監査というより，企業・組織全体におけるIT活用の仕組み作りやインフラの部分の監査にあたるため，全社的な視点での論述が求められました。

【午前Ⅱ】

例年ではシステム監査基準，システム管理基準，財務報告に係る内部統制基準類からの出題が多い午前Ⅱ試験ですが，前述のとおり本年これらの基準が改訂され11月から運用開始となるため，今回は旧システム監査基準から3問出題されただけでした。

AIシステムを対象にしたシステム監査，政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）標準監査手続，特定デジタルプラットフォームの透明性及び公正性の向上に関する法律など，今を反映したテーマが新たに出题されました。その一方で，監査調書やITに係る全般統制などの定番テーマについても，新たな切り口で出题されたのが特徴的です。システム監査技術者試験の過去問題の再出題が多く，特に令和3年度，令和2年度からの出題が多めでしたので，令和の各年度の過去問題を解いていた方は得点しやすかったでしょう。

【午後Ⅰ】

カード情報の非保持化によるクレジットカードの情報保護やローコード／ノーコード開発，クラウドサービスの利用など，どれも今世の中で注目され導入が進んでいる技術がいち早く取り上げられていました。また，昨年の個人情報保護の監査に続いて，2年連続でセキュリティ監査の出题がありました。

問題のページ数は3問ともほぼ4ページ，図表の数が1～2で，問題分量は少なめです。3問とも複雑さはなく読み取りやすい内容でした。小問数（解答すべき事項の数）は，前回試験では1問当たり6～8つが多めでしたが，今回は例年通りの5～6つでした。問題文と小問数のいずれも量的に大差はありませんでした。

<午後Ⅰ問題テーマ>

- 問1 クレジットカード情報保護の監査
- 問2 ローコード／ノーコード開発ツールを利用したシステム開発の監査
- 問3 人材管理システムの監査

【午後Ⅱ】

システム監査技術者の午後Ⅱ試験では、特定の業務やシステムを対象に「リスクーコントロールー監査手続」の流れで問われるのが定番ですが、今回の2問はその応用形といえます。問1がコントロールが問われていない形、問2がコントロールの代わりに監査の着眼点を挙げて監査手続を述べ、それを設問イと設問ウで異なる観点から2回繰り返す形です。しかし考え方は定番と一緒に、コントロール（＝リスク対策）は見えなくても存在しているため、2問とも「リスクーコントロールー監査手続」の流れを意識して書く必要がありました。

問1のデータ利活用基盤、問2のサイバーセキュリティ管理態勢のどちらも、ある程度の規模のものが想定されていることが問題文から読み取れるので、出題趣旨に見合った論述ができるかどうかの評価のポイントになるでしょう。

<午後Ⅱ問題テーマ>

問1 データ利活用基盤の構築に関するシステム監査について

問2 サイバーセキュリティ管理態勢に関するシステム監査について

以上